

一般選抜 前期 国 語 (二日目)

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ゆとりある教育」への評価は、社会の中での「ゆとり」そのものにとらえられ方の変化と、強く連動するものでした。

二十世紀の終わりまでは、「ゆとり」の達成が豊かな社会のつきなる課題だとされており、ものの考え方や取り組み方に自由さや多様性をもたせることが目指されてきました。しかし二十一世紀に入ったところから、すでにあるものを標準としたうえで競いあうことが、社会で生きるためのより差し迫った課題となりました。⁽¹⁾「ゆとり」の価値が反転したのです。

「ゆとり世代」に対するネガティブな評価も、それゆえに生じたものだといえるでしょう。若い世代の実態はともかく、なによりも「ゆとり」という記号がそこに与えられていることが、効率や成果を重視する観点からの批判的まなざしの対象となつたのです。若者の実際の姿を「ゆとり世代であるにもかかわらず」ととらえる評価の仕方は、それ自身が評価軸のずれを表現しています。

⁽²⁾ そのような傾向は、二〇一三年に「さとり世代」という言葉が大きくとりあげられたときの論調にも共通しています。

朝日新聞では三月十八日の「さとり世代、浸透中 車乗らない、恋愛は淡泊…… 若者気質、ネットが造語」(朝刊三十九面)という記事を皮切りに、「ゆとり世代」を「さとり世代」という言葉で言い換えていこうという動きが生じました。四月二十四日から五月四日にかけては、連載「いま子どもたちは」で全八回にわたって「さとり世代」がとりあげられています。各回のタイトルは、「勝ちたいと思わない」「恋愛も、ネット越しで十分」「尾崎豊、ピンとこない」「お金の使い方は一点豪

華主義」「東大より地元の大学がいい」「場面に合わせ友だち選ぶ」「収入ってそんなに重要?」「僕は『ゆとり』の成果物」といったものです。

これらの記事をとおして、若者の消費動向を論じた単行本『欲しがらない若者たち』で現代の若者世代の特徴として指摘された、「車に乗らない。ブランド服もほしくない。スポーツしない。酒は飲まない。旅行しない。恋愛には淡白」といった点が追認・肉付けされ、「さとり世代」という言葉に「結果をさとり、高望みしない世代」という意味が与えられました。

そのさい、「ゆとり世代」と「さとり世代」が差し示すものは厳密には同じではないと前置きされるのですが、しかし記事内で紹介される論者によって、「さとり世代」は「ゆとり教育を受けた世代と年齢的にはほぼ重なるだろう」とも述べられています。この言い換えの意図するところは、『ゆとり世代』はダメな若者を指す言葉になったが、『さとり世代』は、ゆとり教育を受けつつ、さらに勉強をし、現実的な将来を見通す賢い集団でもある。だからこそ、結果をさとりざるを得なかった」というイメージとともに提示されることになりました(二〇一三年三月十八日・朝刊三十九面)。

重要なのは、ここでも「ゆとり教育」そのものの価値が吟味されているわけではなく、それを克服すべきものとあらかじめ前提にしたうえで、若者の動きを評価しようと考えられていることです。記事が採用しているのは、やはり、「ゆとり世代

A 「という論法でした。」

(ア) 結局のところ、「さとり世代」としての若者に向けられる言葉も、批判めいたものが多くを占めることになりました。「さとり」世代についての記事には頻繁に、「十九〜二十六歳のスタッフに頭を抱える。『仕事はそつなくこなすが、上を目指そうという気概がない』」(二〇一三年三月十八日・朝刊三十九面)、「流行語の一つに『さとり世代』というのがある、と初めて知った。あらかじめ敷かれているレールの上を走るのが人生だ、と。それでは、あまりにもつまらなくないか」(同年四月十日・宮城版朝刊二十八面)、「やればもつとできるのに、どうしてある程度で満足しちゃうんだらう。友だちもずっと同じ。世界が広がっていない」(同年四月二十四日・朝刊三十面)といった年長者からのコメントが付されます。

「ゆとり世代」を批判するのと同じ論法で若者をとらえているわけですから、言葉だけが変わっても同じような印象論が引

き出されるわけです。社会的な言説においては、「さとり」に期待された積極的な意味がうまく浸透したとはいえない状況のようです。

こうした若者批判に対しては、(イ) 読者の「声」の欄で、若者の側からの反論が表明されます。「さとり世代だが希望もある」(二〇一三年五月十五日・朝刊十四面)では二十二歳の声が、「若い世代 さとり世代というレッテル」(同年五月十八日・朝刊十二面)では十八歳の声が示され、世代をラベリングすることへのイ議が表現されました。

このように、「ゆとり世代」としても「さとり世代」としても同じような若者像が議論されることになったわけですが、こうしたなかで興味深いのは、「世代論」を相対化した⁽⁴⁾「時代論」に踏みこんだ記事が散見されるようになったことです。ある特定の世代を異なる複数の言葉で表現することをおして、当の若者たちの性質についてのみならず、彼らがおかれた時代や社会の状況についての言及が広がった面があります。

たとえば二〇一三年五月六日・朝刊一面の「天声人語」は、「さとり世代の登場」というタイトルを掲げ、自紙が展開した議論に言及しながらも、「世代論は難しい。的を外すと『ギョエテとは俺のことかとゲーテ言い』となりかねない」と留保をつけています。「長引く不況が彼らにそう強いただけなのか。時代が生んだ新しい生活哲学なのか」と、若者の経験の外側にある時代の思潮に目を配り、「バブル時代の狂騒を思えば、真つ当な方向だ。景気回復もいいが、あんな時代に戻りたくはない」と述べることとなりました。

「さとり」を特定の世代の特徴としてではなく、「時代」や「社会」によってもたらされたものとする言葉には、以下のようなものがあります。

時代の空気が若者気質を規定する⁽⁵⁾とわかれば、さとり世代の価値観はこれから生きていく日本人の指針なのだと思えるはず。少欲知足。金でブイブイいわすのではなく、謙虚で⁽⁶⁾慎み深い・高い精神性で世界から尊敬される日本人を、世代を超えてみんなで目指しましょうよ(自らにも言い聞かせています)。

世代というより「さとり」B「ではないか。

(同年八月二十三日・夕刊十面)

希望を抱きづらい社会だからこそ、自分の置かれた環境についてまさにさとりながらも、夢も希望をより真剣に追い求めて必死にもがく若者たちだと思います。

(同年十一月九日・朝刊十二面)

「さとり世代」という言葉の登場には、ある人びとに与えられる一つの名称が絶対のものではないことを知らしめる効果があったといえるでしょう。ある人びとに関する表現は、その人びとをいかなる状況と結びつけて表現しようとするのか、その設定の仕方によっていかようにも変わってきます。その意味で、「ゆとり」や「さとり」といった言葉は特定の人間集団の本質的な問題を指すものではなく、むしろC「なのだということに、気づかれるチャンスが広がったことになりま

す。
社会で語られていることをこのように大まかに眺め渡してみると、「ゆとり世代」の受難のどこまでが典型的な若者批判によるもので、どこからがそれと異なるものであるかが、見えてくると思います。

「いまどきの若い者は……」といった類の若者バッシングはいつの時代にも、どの世代に対してもあります。先行世代はそれをすることによって旧来の慣習の優位性を主張し、自らが社会的に生き永らえる根拠を確保します。「世代論」という装置はそのように作用する虚しい側面をもちます。

後続世代を批評するにあたって、ただたんに「若者」と呼ぶだけでは、いつの時代のどの若者であるかが不明瞭となるため、先行世代は後続世代をネーミングします。いわく、多くの人間が同時期に生まれれば「団塊世代」、社会的な闘争が落ち着いたあとに成年に達すれば「シラケ世代」、新しいメディアやデバイスに囲まれて育てば「新人類」、コンビニエンススト

アやファストフードをとりこんだライフスタイルが一般的になれば「マニユアル世代」などなど。世代の名称は、時の状況をヒントにして事後的にあてがわれるものです。

どのネーミングも基本的には D のためのものなので、揶揄や嘲笑や褒め殺しのニュアンスを含みもちます。しかし、喩えに用いられる現象自体には、本来は良い側面も悪い側面もあるために、その名称を使って描かれる世代の像にはネガティブな性質と同様にポジティブな性質も組みこまれることになります。(ウ)、「団塊世代は人口が多くて競争が激しいのでがつがつしている、彼らを通つたあとには雑草も生えない。しかし、彼らのバイタリティはやはりパワフルで、戦後の日本社会を支えることになった」「新人類は何を考えているかつかみどころがない。しかし彼らの活動は、たしかに新しい感覚に支えられている」といった具合に。

こうした名称が用いられる場合には、(エ) その世代の「本質」が抽出されているのではなく、洒落つ気であつたられた名称から連想されるものが、世代の特徴として後付けされるにすぎないということが自明⁸⁾でした。

しかし「ゆとり世代」の場合が不幸であるのは、若者を把握するために「ゆとり教育」という現象が選びとられた点にあります。ネガティブな評価はいくらでもなされるものの、ポジティブにとらえられることがほとんどない現象が、たまたまあてがわれてしまいました。

そのため、どの世代でも若い時期に経験したであろう一般的な若者批判の部分までが、「ゆとり教育」の欠点のためだという論理にすり替えられ、また、ネガティブな評価を受けつづける「ゆとり教育」で育つたということが、「ゆとり世代」をバッシングするための有効な根拠にされてしまう事態となりました。世代の印象について負の連鎖が生じてしまったといえます。ポジティブに評価されることがほとんどなされない現象で名指しされてしまったことに由来する、構造的な問題⁹⁾がここにはあります。

ある状況のもとでの認識や評価は、時間の流れのなかで相対化して見る必要があります。「ゆとり」の希求をとおして、教育の果たす役割自体を見直そうとしていたのが、一九八〇年代から一九九〇年代にかけての日本社会でした。「ゆとり教育」

はこうした文脈を背景において、よりニュートラルに理解される必要があると思われる。

(佐藤博志・岡本智周「ゆとり」批判はどうつくられたのか」より。文中省略あり。)

〔問二〕 傍線——部(1)「ゆとり」の価値が反転した」の説明としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 「ゆとり世代」に対するネガティブな評価が、後になって大きく変わったということ。
- ② 社会の変化に伴い、「ゆとり」のとらえられ方がネガティブなものになってしまったということ。
- ③ 二十一世紀に入ったところから、「ゆとり」の大切さが再び注目されるようになったということ。
- ④ 「ゆとり世代」が社会の期待に応えられなかったことで、評価が下がってしまったということ。
- ⑤ 「ざとり世代」という言葉の登場により、「ゆとり」という言葉が反対の意味で使われ始めたということ。

〔問二〕 傍線——部(2)「そのような傾向」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① その世代の特徴を、前の世代と比較して考えようとする傾向。
- ② その世代の良さを全く探そうともせず、批判ありきのまなざしを向ける傾向。
- ③ 若者の実態をみるよりも、ある記号を与え、それを前提として若者をとらえようとする傾向。
- ④ ある世代への評価軸が変化するために、その世代への評価が定まらない傾向。
- ⑤ 社会のなかでの世代をめぐる言葉の使われ方について、批判的にとらえようとする傾向。

〔問三〕

空欄

A

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① とほぼ同じだろう
- ② であるにもかかわらず
- ③ とは違って
- ④ だからこそ
- ⑤ とは何なのか

〔問四〕

空欄（ア）

（イ）

（エ）

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選

びなさい。

- ① ところで
- ② そのため
- ③ しかし
- ④ けっして
- ⑤ たとえば
- ⑥ あたかも
- ⑦ やみくもに
- ⑧ やはり

〔問五〕

傍線——部③「そつなく」と同じような意味の言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ぬかりなく
- ② 仕方なく
- ③ いやおうなく
- ④ 手っ取り早く
- ⑤ 絶え間なく

〔問六〕

太線——部(一)～(三)のそれぞれについて、カタカナは正しい漢字を、漢字は正しい読みがなを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | |
|-----|-----|--------|-------|-------|------|------|
| (一) | い議 | ① 違 | ② 委 | ③ 意 | ④ 異 | ⑤ 移 |
| (二) | 慎み | ① いぶかし | ② したし | ③ つつし | ④ ころ | ⑤ ふか |
| (三) | 虚しい | ① つつま | ② かな | ③ きび | ④ とぼ | ⑤ むな |

〔問七〕

傍線——部(4)「世代論」を相対化した「時代論」の内容として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ある世代の特徴をとらえる視点には複数あり、一つの名称が絶対ではないため、どれが正しいかは決められないという考え方。
- ② ある世代へのとらえ方は時代や社会の状況と結びついており、その結びつけ方によってさまざまに表現できるものだという考え方。
- ③ ある世代の特徴についての議論を絶対視せず、つねに疑ってかかろうとする姿勢を大切にしようとする考え方。
- ④ 若者世代についての表現を、若者の特徴をあらわす絶対的なものとしてとらえるよりも、時代によって変化するものだという考え方。
- ⑤ その世代の性質については、その時代の中ではさまざまにとらえ方ができるため、事後的に相対化することではじめて適切に理解することができるという考え方。

〔問八〕 傍線——部(5)「規定する」の文中での意味にもっとも近いものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 法令化する
- ② 押さえつける
- ③ 否定する
- ④ 評価する
- ⑤ 形作る

〔問九〕 空欄 B に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 問題
- ② 教育
- ③ 時代
- ④ 社会
- ⑤ 言葉

〔問十〕 傍線——部(6)「知らしめる」の意味にもっとも近い言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 認知させる
- ② 理解する
- ③ 予見する
- ④ 自覚させる
- ⑤ 承知する

〔問十二〕 空欄

C

 に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 一般的な人間集団の特徴をあらわすもの
- ② その人間集団が大切にしてきた価値観を表現するもの
- ③ いつの時代の若者にも共通してみられるもの
- ④ その人間集団がおかれた社会や時代の問題を指し示すもの
- ⑤ その時代の状況を批判的にとらえたもの

〔問十二〕 傍線——部(7)「典型的な若者批判」とあるが、筆者は、「ゆとり世代」への批判のどのような点が、「典型的な

若者批判」とは異なるものであるととらえているか。もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 先行世代が後続世代をネーミングしたことで、生き永らえる根拠を確保したこと。
- ② 時の状況をヒントにして事後的にあてがわれたということ。
- ③ その世代の「本質」を抽出せず、洒落っ気でつけられた名称であったこと。
- ④ 若者を把握するために「ゆとり教育」という現象が選びとられたこと。
- ⑤ 後続世代である「さとり世代」が、「ゆとり世代」と比較されて評価されたということ。

〔問十三〕 空欄

D

 に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 競争
- ② 自虐
- ③ 批判
- ④ 主張
- ⑤ 後付け

〔問十四〕 傍線——部(8)「自明」の意味として、もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① あれこれ説明しなくても明らかであること。
- ② 次第に明らかになっていったということ。
- ③ 自分たちで検証し明らかにしたということ。
- ④ 明らかに間違っているということ。
- ⑤ いずれ明らかになるであろうということ。

〔問十五〕 傍線——部(9)「構造的な問題」についての説明として、ふさわしくないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① この世代を把握する現象として「ゆとり教育」が選ばれたことが、問題の一因である。
- ② この問題は、「ゆとり世代」に特有のものである。
- ③ 「ゆとり教育」がポジティブな評価を受けていれば、この問題は生じにくかったかもしれない。
- ④ 先行世代が後続世代をネーミングするだけでは生じない問題である。
- ⑤ 「ゆとり世代」へのネガティブな評価が、「ゆとり教育」への評価を一層ネガティブにするという負の連鎖を生み出した問題である。

〔問十六〕 次の①～⑤のうち、本文の趣旨に合致しないものをつ選びなさい。

- ① 「ゆとり世代」と「さとり世代」への批判には、名称こそ異なるものの、似たような側面を見出すこともできる。
- ② 先行世代によつて後続世代がネーミングされ、そこに批判的な意味合いが込められることは、「ゆとり世代」が初めてではなく、それまでにもみられた現象である。
- ③ 「ゆとり世代」がネガティブな評価を受けつづけたのに対し、「さとり世代」への批判は限られていたことから、こうした「世代論」を冷静に相対化することが大切である。
- ④ 若者世代のネーミングは、その集団をどのような状況と結びつけるかという設定に左右されるものであるから、その人間集団の本質を指し示すものとしてとらえるべきではないだろう。
- ⑤ 「さとり世代」という言葉が登場したことで、世代をあらわす表現が、その世代の若者の性質だけでなく、時代や社会の状況を映すものでもあるというとらえ方も、人々の間でみられるようになった。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

文字離れだとか映像の時代だとかいった話は、すでに耳にたこができるほど聞かされている。そのくせ街を歩いていて目に映るのは、仕事の内容や店の名前を律義な楷書風の字体で書いた林立する看板であり、「注意」、「危ない」、「静かに」、などと書かれた標識である。古びた写真をとりだして、街の風景を二、三〇年以前と比較すればすぐに分かることだが、街路に所狭しと看板が張り出され、家々にのこらず表札が貼り付けられるようになったのは、そう遠いむかしのことではない。かつては道の曲がりぐあいや建物のかたち、暖簾のれんの図柄などを頼りに、何度も道を聞きながらひとを尋ねたものだ。その問答の中で、行先に着くまえから、街の「空気」を味わい、「匂い」を嗅いでいた。だが、いまやわれわれは、「情報化」された街を、文字や数字に誘導されて進むのだ。その意味では、われわれの街の言語化・文字化は確実に進行しているといつてよいだろう。

けれども、それで道がいつこうに憶えやすくないのは、文字の氾濫によって表示効果が相殺されるためばかりではない。生きた、「真実の記憶」⁽²⁾は、マルセル・ブルーストが断言したように、理知的な記憶、目による意志的な記憶ではなく、匂いや響き、身ぶりやしぐさのこる無意識的記憶であるからだろう。

もう四年も前のことになるが、大阪の天神祭のテレビ中継に作家の宮本輝氏が招かれて出演していたことがあった。華やいだ天満天神を中心に、テレビカメラがだんじりや太鼓を打つ男たちを映しだすのを見たあとで、祭りの印象を聞かれて、「どうも自分の知っている天神祭とちがう。自分の天神さんには、祭りの余韻がつくるなんともいえない淋しい気持があった」、とおだやかに語っていた氏のことばがいまだにわたしの心にのこっている。安治川の川べりの家から祭りを見ながら育った宮本氏にとって、天神祭とは、短冊や笹やスイカの皮など、祭りが残したもの、祭りの破片が、遠ざかる太鼓の響きにのって大川を流れてくるさまであったようだ。テレビカメラは、地上に立つ人間の目には絶対に見えない、祭りの「クライマックス」ばかりを映しだしていたが、そうしたわかりやすいもの、公然たるものは祭りの記憶をよみがえらせてはくれ

ないのである。

われわれはこのように知らず知らずのうちに、テレビカメラなどのはるかに及ばぬ経験をしているのである。そして、たんなる情報や知識とはちがって、ほんとうの経験とは、この宮本輝氏の天神祭のように、「個人的なもの」⁽³⁾と「共通のもの」⁽⁴⁾が交わる場所に生まれるものであり、それはいつも無意識の部分を多くふくんでいるのだ。

(a)、本書の主題について述べるため、このような迂回路をたどったのは、われわれの身ぶりが表現するものが、本来そのような無意識的経験の領域にかかわるものにほかならないと考えるからだ。身ぶりは、意識的経験の底にひそむもの、背後に隠れたもの、あるいは隠されたもの、公然たる言語的世界にもちだすのが憚られるものに言及するのである。

なるほど、身ぶり語とひとくちにいつても、言語表現を強調したり、凶解したりする手ぶりや表情から、模写的な身ぶりまで、さまざまな動作をふくんでいる。しかし、多くの社会で、地位や身分の高い者ほど、また場面が公式であればあるほど、言語に頼って、身ぶりのレパートリーを自由に使わなくなるといふ顕著な傾向がみられる。身ぶりをいかがわしいもののように恥じるのだ。ヨーロッパで、かつては大人もさかんにやつたらしい、あまたある華々しい侮辱や嘲笑の身ぶりの多くが、今日では禁忌意識のない子どもの表現世界に封じ込められているのもそのためだろう。このことは悪態表現に限られるわけではない。たいていの身ぶりが、おっぴらにするのが憚られるような、人間の実存の澱⁽⁴⁾のようなものへの合意をどこかにもっているのである。

このように、身ぶりは本来的に隠語的なのである。じじつ、隠語の場合と同様に、境界的世界、^{マージナル}裏の世界に生きる人間ほど身ぶりを多く使うという傾向も、いたるところにみいだされる。また、多くの隠語が、公式に流通する言語のなんらかの変形であり、それに形態的に、A⁽⁵⁾しているように、多くの身ぶりも言語に随伴し、それを代替したり、反復したり、ひそかに裏切ったりして、言語に、A⁽⁶⁾する⁽⁷⁾という点でも、身ぶりは隠語と共通性をもっている。

しかし、さまざまな職業的身ぶりのような特殊集団的身ぶりは別にして、この本でとりあげるような一般的な身ぶりは、社会の中のだれもがそれを知っているという点で隠語とは性格を異にする。身ぶりが合意する秘密めいたものは、いわば社

会の「共通の秘密」なのだ。⁽⁵⁾

いかなる社会にも、口に出しておおやけにはできない、しかしそれがなければ現実には生きていけないような暗黙の約束事があるものだろう。公然たる言語のかたわらで、身ぶりが表象するのは、そのような公的にはあってはならない。あるはずのないもうひとつの現実なのである。とすれば、暗黙の了解事項に支えられる部分の多い社会ほど、コミュニケーションにおいて身ぶりの役割が大きいことが当然予想されるであろう。

いま思い出されるのは豊かな身ぶり性をもったスペインの場合だが、かつてアンダルシアの村を研究した英国の社会人類学者ビット・リバーズは、そこでは中央政府のもたらす公的なものと、地域の共同体的なものとのあいだに、社会生活のあらゆる局面において構造的な緊張関係が存在すると述べ、その間の緊張と葛藤は、アンダルシアにおいては相互に情報を秘匿しあい、また無いものを有る、有るものを無いとカ構することによって解消されると結論づけている。(たとえば、「ある人間に恥が欠けているとしても、そのことが暴露されないかぎり、かれが恥をもっているかのように仮定するのが習慣」なのだ、という)

そこで共有されるのは、(a b)、公的にはあってはならない、しかしそれがなければ社会生活がなりたないような約束事、「共通の秘密」である。そして、その秘密というのは、かつて社会学者のジンメルが、「秘密は、顕在的な世界のかたわらに、いわば第二の世界の可能性を提供する。そして前者は後者によって決定的に影響されるのである」(「秘密論」)、と述べたような意味における秘密にほかならない。

身ぶりが合意するのは、そのような「共通の秘密」がつくりだすもうひとつの世界であり、身ぶりはその世界に流通する「共通の隠語」なのである。

言語、とくに標準化された言語は、公教育を通じて、(公式通貨と同じように) 国家によって流通が保証され(——だから法的証拠とされるのだ)、大辞典のような知的「勲章」によって權威づけられてもいる。したがって、日常生活における、あってはならない、しかしなくてはならない事柄について公的言語で話すと、「共通の秘密」によってようやく支えられてい

るささやかな約束事の領域にまで、公権力の介入を許すことになるのである。そのために、言語のように標準化されておらず、場面依存性が高い、構造的に多義性をそなえた、身ぶり語によってそれに言及するのだ。

さて、このまえがきに代えたわたしの議論の最後に、「共通の隠語」としての身ぶりの、きわめて B 具体例を紹介しておきたい。

欧米人がよくする身ぶりに、両方の肩をすくめるようにしながら、両腕のひじを曲げ、両手の手のひらを（指先を下にして）相手に向けて見せる動作がある。東欧のチェコスロヴァキアでも人びとはよくこの身ぶりをする。

ブラハに駐在するある商社員からの報告なのだが、レストランで a カン定がいつもより高いので聞いてみると、無言でこの身ぶりが返されたという。それはかれの経験からすれば、「あまり深くせんざくするの**は**やばですよ。材料が値上りしていますよ。多少の計算違いはあるかもしれませんが、わたしたちのボーナスとして目をつぶって下さいよ」といつているのだという。

またあるとき、スープにハエが入っていたのでウェイターに注意すると、「すみません」と言っただけで皿を取り上げた。が、ほっとして見ていると、かれはハエを指でつまんで床に捨て、そのスープをまたテーブルに戻すではないか。次の瞬間、そのウェイターは客の驚きと怒りのあいまじった表情を見て、やっぱり手のひらをつきだした。「ゴメンナサイ。別に毒はありませんよ。ハエが一匹入ったくらいで捨てるのはもったいないではありませんか。食料不足ですよ。どうしてもといわれるなら取り替えますが、結局なべに戻すだけですよ」と C そうだ。

同様にまた、ガソリンスタンドでいつまで待っても釣銭をくれない係員に催促すると、またこの身ぶりが返ってきた。これは「ベントに乗ってるお客さんは細かいことをいわないものだよ」ということであるらしい。

この報告を書いた商社員は、こんな身ぶりをされても怒ってはいけなし、c (7) 相手を袋小路に追いつめるような詰問をしてはならないと述べているが、そうすることは、結果的に、苦しい生活の中で人びとが支えにしている、暗黙の約束事の領域、わずかな自由の領分をも公権力に、売り渡すことになるのだらう。

東欧の別の国でのことだが、民俗学調査で滞在していたとき、わたしは役人たちが食糧は充分にあると知っているそばで、パン屋や牛乳屋の前まで、手に袋をさげた人びとの長い行列ができてくる状況を毎日、目のあたりに見た。社会主義国の生活には、公式にはあつてはならない、しかしそれがなければ毎日の生活がなりたないささやかな約束事によつてなりたっている部分がきわめて大きいことを知ったわけだが、そのような社会では、右の例のように、身ぶりのコミュニケーションが、共通の隠語^(三)として、人びとのゼン言語的な、ほとんど意識下の連帯を生んで、困難な生活とわずかな自由を支えているのであろう。

しかし、⁽⁸⁾プラハのウエイターの身ぶりを笑うだけで済ませることができる者は、よほどの楽道家といわねばならない。われわれの社会では、毎日洪水のように送られてくる情報が、人びとを結びつけるどころか、かえつて分断するのに役立つている。一方で進行する管理社会化の中で、人びとの共通理解はいよいよ困難になっているのだ。だが、われわれは、共通の隠語^(四)をまだもっているのだろうか。

この本は、他者（異文化）への通り路^{みち}としての身ぶりをめぐる散策である。

（野村雅一『ボディランゲージを読む』より。文中省略あり。）

〔問一〕 傍線——部(a)・(b)の語句の意味としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|
| (a) | 律義な | ① | 実直な | ② | 正確な | ③ | 厳格な | ④ | 頑固な | ⑤ | 緻密な |
| (b) | せんさくする | ① | 責める | ② | 調べる | ③ | 気にする | ④ | 値切る | ⑤ | 訪ねる |

〔問二〕 傍線——部(1)「その意味では」とはどういう意味なのか、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 現代社会では、文字離れや映像化が進んでいる、という意味。
- ② われわれは、街の空気を味わったり匂いを嗅いだり、情報化された街を進んだりしている、という意味。
- ③ われわれは、以前から表札や看板を頼りに道を探していた、という意味。
- ④ 現代社会では、表札や看板の文字情報を頼りに道を探すようになった、という意味。
- ⑤ 現代社会では、道の曲がり具合や建物のかたちなどを頼りに道を探している、という意味。

〔問三〕

傍線——部(2)「マルセル・ブルースト」とはどのような人物か、文章から読み取れるもつともふさわしい説明を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 『失われた時を求めて』の作者。ジョイス、カフカと並んで二〇世紀最大の文学者と言われる人物。
- ② 『失われた時を求めて』の作者。マドレーヌを紅茶に浸して食べながら昔の思い出に浸る主人公を描いた人物。
- ③ 文字の氾濫によって表示効果が相殺されるので、匂いや響き、身ぶりやしぐさに残る無意識的記憶が生きた記憶にならないと考えた人物。
- ④ 理知的な記憶、目による意志的な記憶は生きた記憶にならないと考えた人物。
- ⑤ 身ぶり語についての研究で世界的に知られる社会人類学者。

〔問四〕 傍線——部(3)「個人的なもの」と「共通のもの」が交わる」について、筆者の意見をもっともふさわしく説明し

ているものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① だんじりに乗って太鼓を打つ男たちの個人的な経験と、祭りのクライマックスというみんなに共通のものが交わることで、ほんとうの経験が生まれる。
- ② 川べりの家から祭りを見ている宮本氏をはじめさまざまな人々の個人的な経験が集まって、天神祭というみんなに共通のほんとうの経験を生み出している。
- ③ だんじりに乗って太鼓を打つ男たちの経験こそがほんものであって、川べりの家から祭りを見ている宮本氏の個人的な経験もその影響を受けている。
- ④ 祭りの余韻がつくるなんともいえない淋しさがほんものになってしまふのはよくない。
- ⑤ だんじりに乗って太鼓を打つ男たちは、川べりの家から祭りを見ている宮本氏とは同じ祭りの体験ができていない。

〔問五〕 空欄（ a ）（ ）（ c ）に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑨の中からそれぞれ一つずつ選

びなさい。

- | | | | | | |
|---|---------|---|------|---|------|
| ① | まさしく | ② | ましてや | ③ | いわば |
| ④ | ところで | ⑤ | ところが | ⑥ | しかし |
| ⑦ | にもかかわらず | ⑧ | そこで | ⑨ | なぜなら |

〔問六〕

空欄

A

に当てはまる語としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 共生
- ② 従属
- ③ 寄生
- ④ 抵抗
- ⑤ 優越

〔問七〕

傍線——部(5)「共通の秘密」に用いられている表現技法としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中

から一つ選びなさい。

- ① 比喩
- ② 反語
- ③ 形容矛盾
- ④ 押韻
- ⑤ 同語反復

〔問八〕

波線~~~~部「現実」「世界」は共に「リアリティ」というフリガナがつけられているが、それはなぜか。もつともふさわしい理由を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 英語では同じ「リアリティ」になってしまいが、日本語では「現実」と「世界」は別の言葉である以上、その区別があるのを読者に断っておくため。
- ② 日本語では「現実」と「世界」は別の言葉であるが、英語では同じ「リアリティ」である以上、その区別をすべきでないのを読者に断っておくため。
- ③ 誰もが知っているわけではないにもかかわらず、それは虚構ではない、というリアリティの現実的側面を強調するため。
- ④ 誰もが知っているわけではないにもかかわらず、リアリティが一部の人間ではなく誰もが共通の世界を提供するのを強調するため。
- ⑤ 誰もが知っているわけではないにもかかわらず、それは虚構ではなく現実であり、同時に共通の世界でもあることを強調するため。

〔問九〕

太線——部(一)～(三)のカタカナ部分の漢字を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (一) | カ 構 | ① | 加 | ② | 化 | ③ | 仮 | ④ | 架 | ⑤ | 画 |
| (二) | カ 定 | ① | 鑑 | ② | 寛 | ③ | 監 | ④ | 勘 | ⑤ | 款 |
| (三) | ゼ ン 言 語 的 | ① | 全 | ② | 善 | ③ | 漸 | ④ | 然 | ⑤ | 前 |

〔問十〕 傍線——部(6)「暴露されない限り」とはどういう意味なのか、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から

一つ選びなさい。

- ① 中央政府はアンダルシア人を公然と恥知らず扱いしている。
- ② 中央政府はアンダルシア人を暗黙のうちに恥知らず扱いしている。
- ③ 他人の恥知らずを暴露することはそのこと自体恥に欠ける行為である。
- ④ アンダルシア人は他のアンダルシア人の恥知らずを暴露しないことを、公然とした習慣にしている。
- ⑤ アンダルシア人は、中央政府を公然とは恥知らず扱いしないことを習慣にしている。

〔問十一〕 空欄 B に当てはまる語としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 生々しい
- ② 痛々しい
- ③ 禍々しい
- ④ 寒々しい
- ⑤ いまじましい

〔問十二〕 空欄 C に当てはまる語としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 耳を疑った
- ② 顔に書いてあった
- ③ 口をついて出た
- ④ 首を振った
- ⑤ 頬をふくらませた

〔問十三〕 傍線——部(7)「そうすること」が指している事柄として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 怒ったり詰問したりすること
- ② 怒ったり詰問したりしてはならないこと
- ③ 怒ったり詰問したりはしないこと
- ④ 怒ったり詰問したりしてはならないと述べること
- ⑤ こんな身ぶりをすること

〔問十四〕 傍線——部(8)「プラハのウェイターの身ぶりを笑うだけですませることのできる者は、よほどの楽道家といわねばならない。」の意味を説明している文章として、もっともふさわしいものを次の①～⑤の中から選びなさい。

- ① 非常にけしからん不正をしているのだから、笑って許すべきではなく、取り締まるべきだ。
- ② 身ぶりの意味が今はまだ伝わっているが、今後伝わらなくなる・伝えてはならないものとして公権力から管理される恐れがある。
- ③ 身ぶりの意味が毎日洪水のように送られてくる情報によって日々変化しており、それに追いつくのはかなり難しい。
- ④ 社会主義の国ではそれほどまでに生活が苦しく、彼らもやむにやまれぬ事情からそれら不正をしているのだということに同情・共感する必要がある。
- ⑤ 暗黙の約束事の領域を守るためにしていることを笑うのは不謹慎であり、真剣に理解するよう努めるべきだ。

【解答例】

入試年度 : 2021
入試種別 : 一般選抜
前期日程 1日目
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	2
2	3
3	2
4	2
5	8
6	5
7	4
8	1
9	4
10	3
11	5
12	2
13	5
14	3
15	1
16	4
17	4
18	3
19	1
20	5
21	3
22	1
23	2
24	4
25	4

問No.	解答番号
26	2
27	4
28	1
29	2
30	3
31	3
32	5
33	3
34	4
35	5
36	5
37	1
38	2
39	1
40	2
41	—
42	—
43	—
44	—
45	—
46	—
47	—
48	—
49	—
50	—